

打越の家

設計 矢板久明+矢板直子/矢板建築設計研究所
名和研二/なわけんジム
施工 久保田工務店
所在地 横浜市中区



東側外観。内部空間を木造で、庇となる外部を鉄骨造とする異方向異種構造による、水平力は梁方向を鉄骨が桁方向を木材が負担している
上げ、写真手前側の鉄骨の柱は上端が屋内から屋外に向けて倒れている

右頁 西側外観見



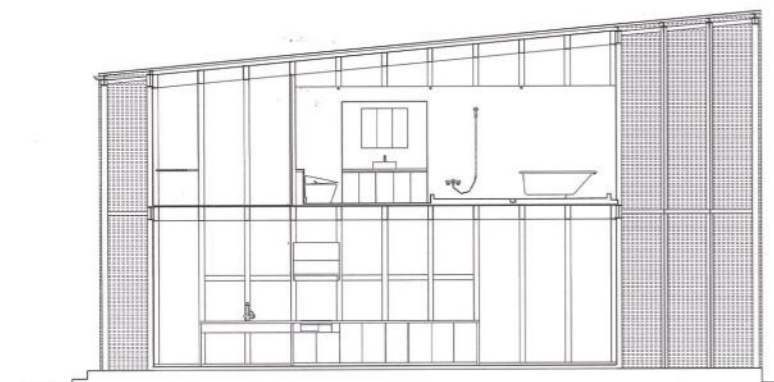


横浜山手の外人墓地から続く尾根に向かって、元町側から上る坂道に面してこの敷地はある。建主は夫婦と子供ふたりの4人家族で、ご主人は週末に釣りにでかけることを趣味とし、仕事は建築のプレゼンテーションをしておられる方である。職業柄、建築への造詣も深く、設計のテーマを建主と一緒に探すことができた幸運なプロジェクトであった。ここで計画の目標となったことは、第一に、限られた予算を生かすため間仕切りを極力減らし、なるべく仕上げをしないで構造をそのまま現すこと。次に、ご主人がトロリングで釣った魚を帰ってからすぐに捌けるよう、1階を土間のような部屋と考え、内部も含め敷地全体をひとつの空間として生かすことであった。ここで選択された構成は、門型の単純なフレームを敷地の長手方向に連続して並べ、そこに幌のように外皮を被せる方法であった。こういった架構は鉄骨構造とすれば、開放

性を保ちながら筒状の空間を容易に実現できるが、住宅として考えるならば内部に鉄骨が露出することは避けたほうがよいと思われた。そこで、木構造を導入し、短手方向の揺れと、防火への対応は、鉄骨が受けもつ混構造にすることとした。木構造を導入することは、構造をそのまま仕上げとし得るし、家具まで大工工事とすることで、限られた予算で生活の質を上げられると判断したからである。この木構造部は材料の違いや、その木地の違いが気にならぬよう予め白く染められたものを現場で組み立ててある。一方、敷地は変形しているため、この形を建物に写し、門型フレームを敷地の端で道路に沿うように斜めに置いた。さらに、これをランドマークタワーが見えるように足下で扇の骨のように束ねてある。外皮はガルバリウム鋼の折板である。外壁と屋根を同一の材料で幌のように表現できる材料として選択した。設計中、特に意識したことは、でき上が

た建築から、建設するときの過程が、映画を見るように簡単に想像できるような建物にしようとしたことであった。スケルトンが立ち上がったとき、建物は凛々しく見え、建築しようとする意志をはっきりと感ずることが多い。しかし、仕上がるとその意志は影を潜め、そこに起きたことを思い起こすのが難しくなることがしばしばである。ここではそんな気持ちを消さずに現せたように思う。でき上がった建物にその過程が見えると思う。そこには部材の関係が見え、ジョイントが見え、建築することの楽しさが見えるのである。でき上がった建物を眺めていると、そこに古典的オーダーの起源とは、こんな楽しさを固定しようとした願望から始まったのではないか、という思いがよぎるのであった。(矢板久明)

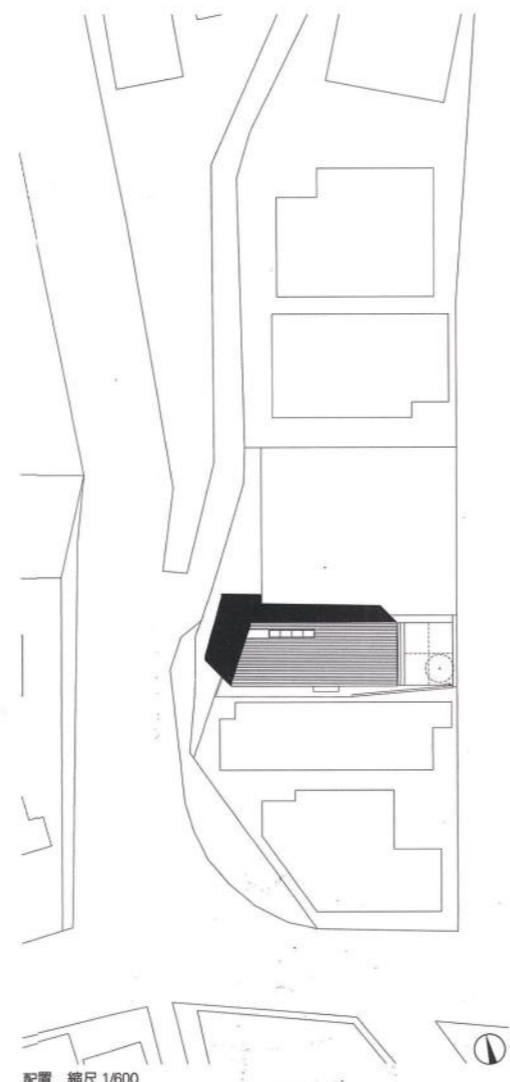
54～55頁 玄関より食堂・居間を見る。深夜電力を利用する電気式の床暖房が入っている。壁面はラッカー薄塗りの15mm厚構造用合板の外部に75mmのグラスウール、PB、防水紙、15mmの空気層そしてガルバリウム鋼折板という構成。天井高は梁下端で2,891mm、間口は4,620mm。ダイニングテーブルとキッチンのトップは共に45mmのベイマツ



断面 縮尺 1/150



全景



配置 縮尺 1/600



2階主寝室、ベッドボードの裏側が階段



2階浴室



1階食堂を見下ろす。左手奥に見えるのは玄関ドア

鉄と木による異方向異種構造

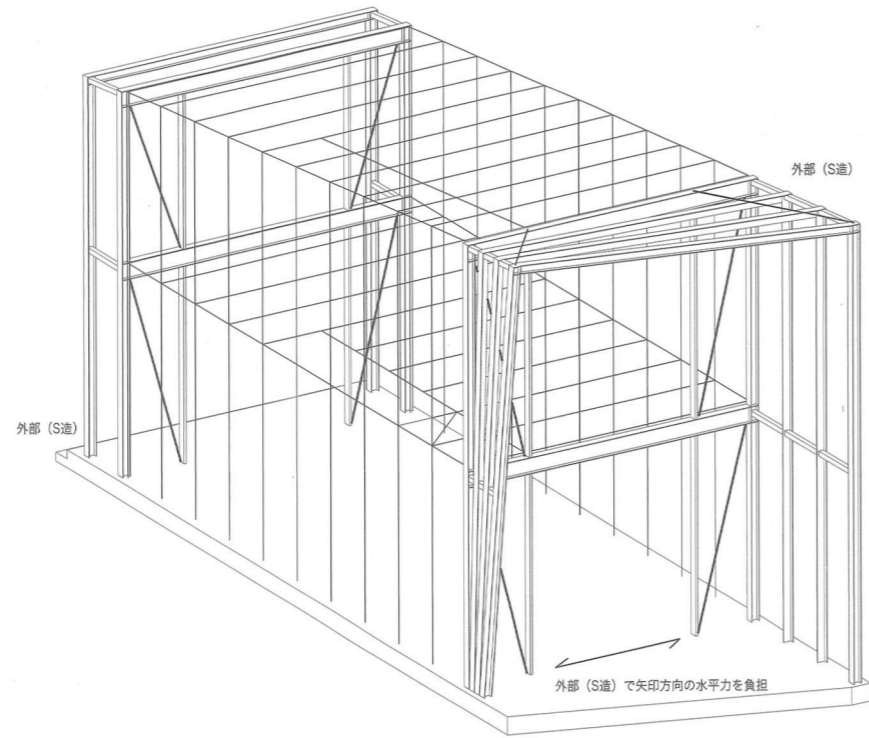
本建物は内部空間を木造とし、東西窓面から外部の庇部分を鉄骨造とした異方向異種構造である。水平力については、梁方向を鉄骨（丸鋼ブレース）、桁方向を木造（構造用合板）で負担している。外部の鉄骨は、端部の開放性、防火基準、庇の風圧力への対応からサッシュ枠の形成までを兼ね、内部の木造は、熱/環境/施工体制（家具工事まで含め大工工事とする）に対する配慮と、形態、法制度、環境、コストを同時に解決する材質/工法として採用した。基礎は杭構造である。（名和研二）



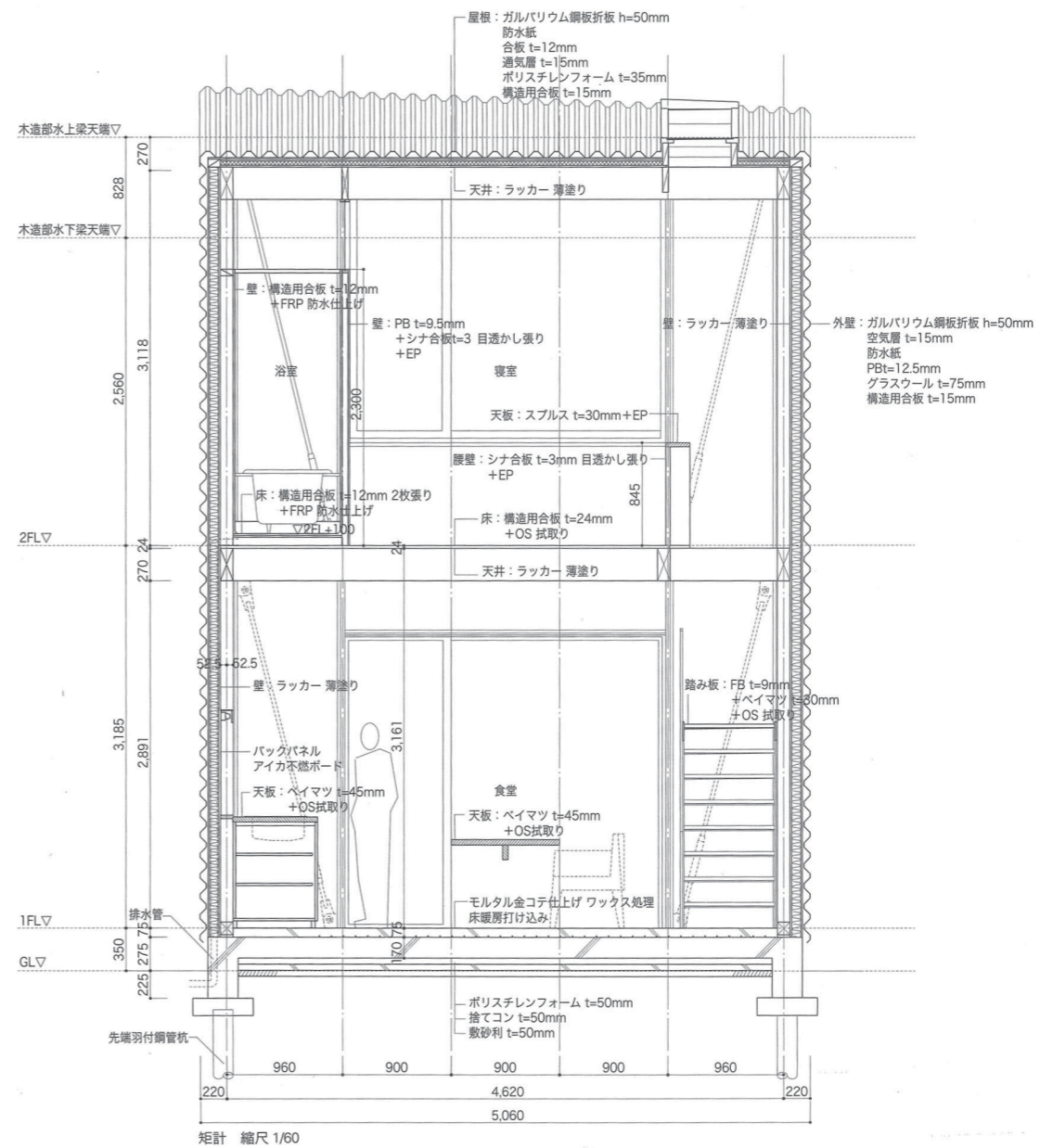
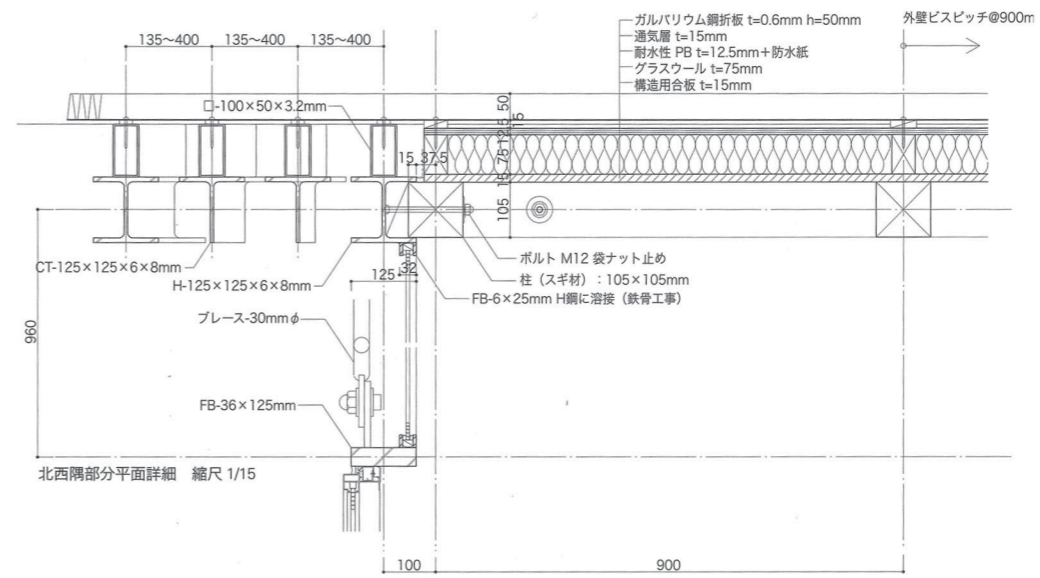
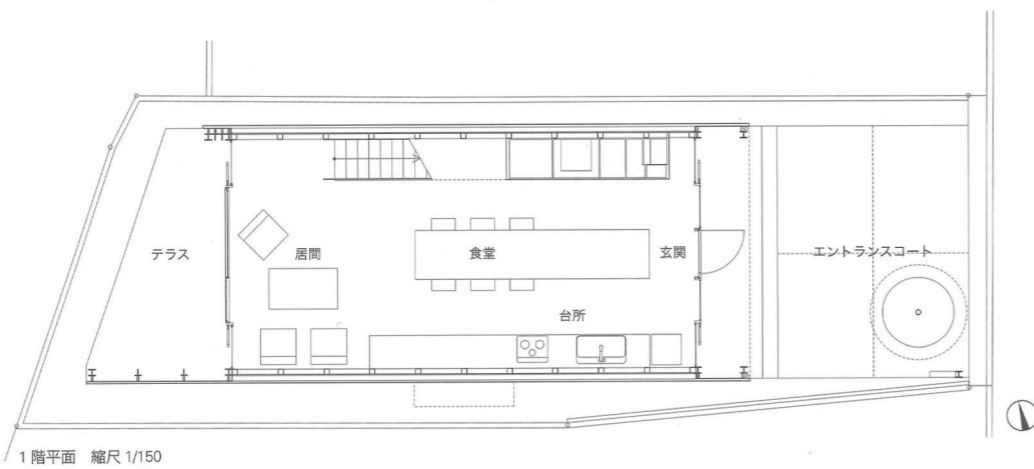
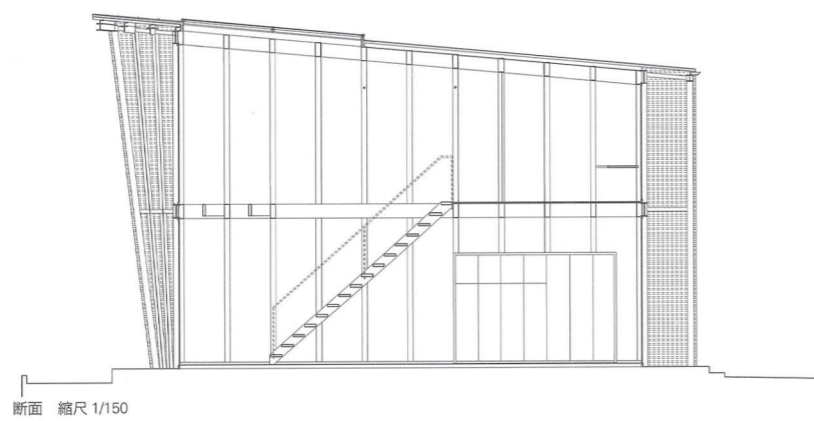
北西外部の足元を見る



北西隅部を見る。サッシュ面を境に外部は鉄骨造で内部は木造



構造部材構成図



■打越（うちこし）の家
 所在地/横浜市中区
 主要用途/専用住宅
 家族構成/夫婦+子供2人

設計
 矢板建築設計研究所
 担当 矢板久明 矢板直子 大久保元彰
 構造 なわけんじム
 担当 名和研二
 設備 島津設計事務所 担当 島津充宏

施工
 久保田工務店
 担当 久保田静夫 久保田努 鈴木和則
 設備 恒エンジニアリング 担当 木村恒治

構造・構法
 主体構造・構法 木造+鉄骨造
 基礎 先端羽根付き鋼管杭+ベタ基礎

規模
 地上2階
 軒高7,187mm 最高の高さ7,313mm
 敷地面積 110.66㎡
 建築面積 47.80㎡ (建蔽率43.2% 許容60%)
 延床面積 84.08㎡ (容積率76.0% 許容160%)
 1階 42.50㎡ 2階 41.58㎡

工程
 設計期間 2003年12月~2004年6月
 工事期間 2004年7月~2004年10月

敷地条件
 第1種住居地域
 道路幅員 東4.0m 駐車台数1台

外部仕上げ
 屋根・外壁/ガルバリウム鋼 t=0.6mm 折板 h=50mm (三兎金属)
 開口部/スチール部: 鉄骨工事 特注スチールドア ビル用アルミサッシュ
 外構/テラス・タタキ: コンクリートゴデ仕上げ

内部仕上げ
 居間・食堂・台所
 床/モルタル金ゴテ仕上げ+樹脂ワックス処理
 壁/柱: 乾燥スギ材 構造合板 t=15mm ラッカー薄塗り
 天井/ベイマツ梁材 構造合板 t=24mm ラッカー薄塗り
 キッチンパネル/アイカ不燃ボード張り
 キッチンカウンター・食堂テーブル/ベイマツ梁用構造材加工 オスモカラー拭き取り

主寝室・子供室
 床/構造用合板 t=24mm オスモカラー拭き取り
 壁/シナベニヤ t=3mm 目透かし張り EP
 柱: 乾燥スギ材 構造合板 t=15mm ラッカー薄塗り
 天井/梁: ベイマツ 構造合板 t=15mm ラッカー薄塗り

設備システム
 空調 暖房方式/深夜電力躯体蓄熱方式床暖房 (アオキ住宅設備販売)
 冷房方式/空冷ヒートポンプエアコン
 換気方式/24時間機械換気 (レンジ、換気扇による)
 給排水 給水方式/上水道直結
 排水方式/公共下水道放流

主な使用機器
 衛生機器/INAX
 厨房機器/中外交易 (シンク) 松下電工 (IHコンロ)
 照明/遠藤照明 小泉照明 大光電気 ヤマギワ 山田照明
 家具/久保田工務店
 建築物/スガツネ ベスト 美和 丸喜金属
 ロイヤル リラインス
 カーテン/空調

撮影/本誌写真部 大沢誠一

2 0 0 5

新建築

昭和 61 年 7 月 8 日 第三種郵便物認可
ISSN1342-6516

住宅特集

03

特集

3階建てのリアリティ

記事 子世代の見た都市型住宅 東利恵 / 室伏暢人 / 六角美瑠 / 大杉絵美

作品 佐藤光彦 / 川口通正 / 手嶋保 / 佐藤重徳 / 上田知正 + 中川陽子

今月の設計者

吉村篤一

神家昭雄

矢板久明 +

矢板直子 +

名和研二

小島真知

駒田剛司 +

駒田由香

長田直之

矢作昌生

厚秀朗 +

長瀬りか

武市義雄

岩川卓也

荒谷省午

第21回吉岡賞発表

審査座談会 渡辺真理 + 香内田章夫

受賞作をめぐって 有馬裕之 千葉学

227